

# 間諜座事件

海野十三

青空文庫



これは或るスパイ事件だ。

ところで、これから述べてゆく其の物語の中には、日本人の名前ばかりが、ズラズラと出てくるのだが、読者諸君は、それ等を悉く真の日本人だと早合点はやがてんされてはいけない。実はその間かんちよ諜う一味は××人なのである。本来ならば「丸木花作事本名まるきはなさくことほんみょう張学霖ちようがくりんは……」といった風に書くのが本当なのであるが、

それを一々書くのが、煩わずらわしい程、××人が出てくることであるか

ら、一つ思切おもいきつて、味噌も糞も悉く日本人名前の方だけを書くことにした。

どうかお読みになつて、うち裏に、さっかく錯覚を起さないようにして戴いたきたいと、お願いして置く。さて――

## 2

霧の深い夕方だった。

秘密警備隊員の笹枝ささえだげんご弦吾は、定めさだられた時刻が来たので、同

志の帆立介次と肩を並べてS公園の脇をブラリブラリと歩き始めていた。もう冬と名のつく月に入ったのだったが、今夜はそう寒くもなかった。しかしこう霧が降りていては、連絡をとるのに稍困難を覚えた。その連絡員というのがうまく自分達を探しあてて呉ればいいが……。

「ウーイ、こらさのさツ——てんだ」

向うから酔払いの声が聞える。顔も姿もまだ見えないが……。弦吾は肘でチョイと同志帆立の脇腹を突いた。

ぬからず帆立が、

「ピ、ピーイ、ピツ……」

とヴァレンシアのメロディーを口笛で吹き始める。

ヒヨロヒヨロと、向うから人影が現れた。

弦吾はツと帽子を被り直した。

どおーん。

酔払いが突き当たった。

「ヤイ、ヤイ、ヤイツ」酔払いが呶鳴った。

「つつ突き当りやがって、挨拶をしねえとは何でえ。こつこの

棒やろうめくい野郎奴」

「……」

「だツ黙ってるな。いよいよもう、勘弁ならねえ、こつ此の野

郎ツ」

どおーんと突き当たったのはいいが拳固を振り下ろすところを、

ヒラリと転かわされて、

「ぎやーッ」

と叫ぶと、酔すいかん漢は舗道ほどうの上に、長くのめった。

弦吾と同志帆立とは、酔漢の頭を飛び越えると足あし早はやに猿江さるえの交叉点こうさてんの方へ逃げた。

細い横丁を二三度あちこちへ折れて、飛びこんだのはアパートメントとは名ばかりの安宿やすやどの、その奥まった一室——彼等の秘密かくの隠れ家が！

「どうだった？」入口の扉ドアにガチャリと鍵をかけると、帆立が云った。

「ウン、これだ」

弦吾は掌てのひらを開くと、小形のたばこやマッチを示した。酔払いから素早く手渡された秘密のマッチ箱だった。小指の尖さきで、中身をポンと落しメリメリと外箱そとばこを壊こわして裏をひつくりかえすと、弦吾はポケットから薬くすりびん壘うを出し、真黄まつきな液体をポトリポトリとその上にたらしした。果然かぜん、見る見る裡うちに蟻の匍はつてはいるような小文字もじが、べた一面に浮び出た。

本部からの指令だった！

二人は、マツチ箱の裏に書かれた指令文を読み終ると、合わせ  
 ていた額ひたいを離して、思わず互たがいの顔を見合わせた。二人は一語いちごも発  
 しない。余程よほど重大な指令と見える。

その指令というのは――

(指令本第一九九七八号)

(一) QX30トQZ19トハ、即刻間諜座そつこくかんちようざニ赴おもむキ、「レビユー  
 ・ガール」の内うちヨリ左眼ニ義眼ヲ入レタル少女ヲ探シ出シ、彼女  
 ノ芸名ヲ取調べ、QZ16ハ直ただチニR区裏ノ公衆電話傍そばニ急行シテ  
 黄色ノ外がいとう套ちやくくヲ着セル二人ノ同志ニ之これヲ報告セヨ。又QX30ハ間  
 諜座内ニ其儘そのまま止リテ、打出うちだシト共ニ群衆ニ紛まぎレテ脱出セヨ。

(二) 右ノ報告ヲ本日午後十時マデニ報告シ得ザルトキハ、在 京同志ハ悉ク明朝ヲ待タズシテ塵殺セラルルコトヲ銘記セヨ。

「死線しせんは近づいたぞ」

「かねて探していた敵の副司令が判つたというわけだな」

「ウン、義眼を入れたレビュー・ガールとは、うまく化けやがつた」

「だが間諜座へ入ることは、地獄の門をくぐるのと同じことだ。固くなったり、驚いたりして発見されまいぞ」

「あのなかは敵の密偵みつていで一杯なんだろうな」

「毎夜、観客の中に百人近くの密偵みつていが交まじっているということだ。」

そして何か秘密の方法で、ぶたいうえ舞台上の首領と通信をしているそう  
だ」

「首領よりか副司令のあの小娘こむすめが恐ろしいのか」

「そうだ。あの小娘は悪魔の生れ代りだ」

「するとあの副司令を今夜のうちに、こつちの手でヤツつける手て  
筈はずになつたんだな」

「ウン。——どうしてヤツつけるかは知らないが、副司令のやつ、  
義眼を入れてレビユー・ガールに化けているてえことを、嗅かぎつ  
けられたが運の尽つきだよ。おお、もう五時半だ。あといくらも時  
間が無いぞ。さア出発だ」

弦吾は腰をあげた。

「おっと待ちな、冷いつめたながら酒がある。別れの盃さかずきと行こう」

同志帆立は、押入の隅から壇詰を取出した。汚れたコップに、黄色い酒がなみなみとつがれた。

カチャリ、カチャリ。

「地獄で会おうぜ」

「世話になったな」

部屋を出ようとするときだった。

ブ、ブ、ブブー。

テーブル卓子の裏に取付けたブザーが鳴った。

「ほい。XB4が呼んでいるッ」

弦吾は室内に引返した。壁をポンと開くと嵌めこんだような超ち短波ようたんぱの電話機があつた。

「QX30だ」

「こっちは、XB4だ」と電話機の彼方かなたで小さい声が出た。「報告があつたぞ、いよいよ動員指令が下くだつたそうだな」

「ウン」

「ところで注意を一つ餞別はなむけにする」

「ほほう。ありがとう」

「あの間諜座ね『魚眼<sup>ぎょがん</sup>レンズ』のついた撮影機で、観客一同の顔つきが何時<sup>いつ</sup>でも自由自在にとれるんだそうだ。ぬかりはあるまいが、顔色を変えたり、変にキョロキョロしちやいかん。皆の笑うところでは笑い、皆が澄<sup>す</sup>ましているときには澄<sup>す</sup>ましていなくちやいかん。いいかね」

「魚眼レンズを使っているのか？ よおし、油断<sup>ゆだん</sup>はしないぞ」

「義眼を入れたレビユー・ガールの名前をつきとめるんだって、誰にも尋ね<sup>たず</sup>ちや駄目だぞ。敵の密偵<sup>みつてい</sup>は巧妙に化けている。立<sup>た</sup>ち処<sup>どころ</sup>に殺されちまうぞ」

「ウン、誰にもきかんで、見付けちまおう」

「見付ける方策ほうさくが立っているのか」

「うんにや、そういうわけでもないが、プログラムを探偵すれば、何々子という名前がきつと判るよ」

「それで安心した。じゃ別れるぞ。しっかりやれ、同志QX30！」  
「親切有難うよ」

魚眼レンズで観客全部の顔色を覗のぞいているツて——ちえツ、そんなものに引懸ひっかけられて堪たまるものかい！

間諜座とは、敵の密偵の夜会場なんだから、そういう名で

仲間と呼んでいるのだ。本当の座名はデイ・ヴァンピエル座！

デイ・ヴァンピエル座第9回公演——と旗が出ている間諜座の前だ。R区は、いつもと、些とも変らぬ雑沓だった。

しばらくウインドーの裸ダンスの写真を、涎を垂らさんばかりの顔つきで眺めて——

「さア、お前はどこに決めるんだ」

「俺は断然、この丸花一座を観る」

「じゃ俺もそう決めた。……いいよ、今夜は俺が払うから、  
委しとけ」

「イヤ駄目だい。今夜は俺に払わせろ」

「いいんだよオ」

「いけないよオ」

すこぶてぎわ

頗る手際よく、だらしなくグニヤグニヤともつ縫あれ合いながら弦吾

と同志帆立はプログラム片手にひつつかんだ儘まま、嬉しそうに入っ

ていった——だが一皮下は、棒を呑のんでいるような気持だった。

明るい舞台では、コメデイ「砂丘の家」が始まっていた。

流石さすがにカブリツキは遠慮えんりよして、中央の席に坐る。

舞台は花のように賑にぎやかだった。

だが、それに引きかえ、観客席のQX30は、面おもてこそ作り笑いに

紛まぎらせているが、胸うちの裡なまりは鉛を呑んだように憂鬱ゆううつに閉とざされて

いた。そのわけは彼の手に握られたプログラムにあった。

この複雑きわまるプログラムのうちから、義眼を入れたレビユ  
ー・ガールの名前を探し出すなんて、如何に無鉄砲むてっぽうなことだか、  
そのプログラムのおもてを一と目見ただけで充分に知れることだ  
った。

同志百七十一人の生命を賭かける死のプログラム！

どうか読者諸君も気を鎮めて、次に示すこのプログラムに共に  
眼を移して下さい。

プログラム

第三・コメデイ・砂丘の家

●ブルターニュ郊外の家

父親	ジャック	松田待三郎	母親	カテリナ	武中	文子
姉娘	ロジナ	東明	波子	妹娘	マリイ	郡家
						月子
紳士	ケリー	田方	青二	青年	フルトン	丸山
						彦太
お手伝いさん	ロセツト	住吉	景子	店員	アプリン	間宮
林八	近所の娘	アン	香川	桃代	マーゲリー	平河み

ね子      ドロシー      小林 翠子      ルイズ      六条 千春

第四・ダンス・エ・シャンソン

●ダンス（木製もくせいの人形）

六条 千春      平河みね子      辰巳 鈴子      歌島 定子      柳

ちどり

小林 翠子      香川 桃代      三条 健子      海原真帆子      紅

黄世子

●シャンソン（朝顔あさがおの歌）

咲田さき子

●ダンス（美うるわしの宵よい）

（唄）花柳 春子      須永 克子      山村 蘭子      杉原 常子

須永 克子

● シャンソン（遙かなるサンタ・ルチア）

● ダンス（オー・ヤヤ）

間宮 林八 花柳 春子 神田 玉子

● ダンス（カンツリー・ダンス）

歌島 定子 玉川 砂子 大井 町子 御門 秋子 三

条 健子 辰巳 鈴子 水町 静子 小牧 弘子 六条

千春

● ファイナレ

平河みね子 辰巳 鈴子 歌島 定子 柳 ちどり 小

林 翠子 香川 桃代 三条 健子 海原真帆子 紅

黄世子

第五・ナンセンス・レビューー弥次喜多

●第一景・プロローグ

喜多八 丸木 花作 弥次郎兵衛 鴨川 布助

●第二景・大阪道頓堀どうとんぼり

舞妓 紅・黄世子 歌島 定子 三条 健子 辰巳 鈴子

香川桃代 平河みね子

喜多八 丸木 花作 弥次 鴨川 布助

●第三景・嵐山渡月橋とげつきよう

妙林 鷹司 風子 尼僧甲 玉川 砂子 同乙 大井 町子

同丙 水町 静子 同丁 御門 秋子

● 第四景・琵琶湖畔 びわこはん

葉売 武智 太郎 葉屋娘お金 柳 ちどり お銀 海原真

帆子 喜多 丸木 花作 弥次 鴨川 布助

● 第五景・山賊邸展望台

首領 松田待三郎 中国人甲 田方 青二 同乙 春山田之

助 同丙 丸山 彦太 唐子の娘 松浦 浪子 柳 ちど

り・東路 艶子 歌島 定子 川島 武子 花村 京子

三条 健子 辰巳 鈴子 喜多 丸木 花作 弥次

鴨川 布助

● 第六景・奈良井遊廓 ならいゆうかく

花魁初菊 花柳 春子 同赤玉 山村 蘭子 提灯持 奈良

木 清 元永 敏夫 金棒引 清洲 蝶子 神田 玉子

禿 海原真帆子 新造 玉川 砂子 大井 町子 水

町 静子 御門 秋子 芸者 小牧 弘子 香川 桃代

平河みね子 小林 翠子 喜多 丸木 花作 弥次 鴨

川 布助

痺れる脳髓！

もし此処で卒倒したらば、それで万事休すだ！

弦吾は無形の敵と闘った。血を油に代えて火を点じ、肉を千切

って砲弾の代りに撃った。何とかして、この中から義眼のレビユ

ー・ガールの、名前を見付け出したい。その張りきった焦躁

で、舞台の方に向けている眼は空洞うつろになろうとする。

——いつの間によら、第三コメデイ「砂丘さきゆうの家」は幕となつた。弦吾は同志帆立わきばらに脇腹わきばらを突つかれて、慌あわてて舞台へ拍手を送つた。途端とたんに、

「おや？」

弦吾は、なにかしらハツとした。靈感れいかんの迸ほとばしり出でようという気配けはいを感じた——子供のときから、不思議な癖くせで……。

（そうだ。あの消去法しょうきよほうという数学、あれを応用して一つやってみよう、よし！）

彼は遂ついにに一つのプランを思いついた。頭脳にわは俄かに冷静となつた。科学者だった彼の真面目しんめんもくが躍如やくじよとして甦よみがえつた。消去法と

は一体どんな数学であるか。

そのときベルが、けたたま喧しく鳴った。ジャズにはや囃されて重いどんちよ緞帳じやうが上つていった。いよいよ第四の「ダンス・エ・シャンソン」の幕が開いたのだった。

何よりも先ず第一の問題は、誰が義眼を入れているかを発見することだった。

舞台では、飛び上るようなメロデーにつれて七曲の第一、

ダンス（もくせい木製のにんぎよう人形）

が始まった。赤と白とのだんだらの玩具おもちゃの兵隊の服を着、頬つぺたには大きな日の丸をメイク・アップした可愛かわい十人の踊り子が、五人ずつ舞台の両方から現れた。

タツタラツタ、ラツタツタツ。

ラツタラツタ、タツタララ。

踊り子たちは、あたか恰も木製の人形であるかのようにギゴチなく手足を振った。

（おお、このなかに、義眼を入れた女が居るか？）

眼を見張ったが、こう遠くでは判らない。と云つて今さら舞台の前のカブリツキまで出られないし、たとい出てみたところでもしろ小さい眼のことだ。義眼と判るとまで行くまい。

Q X 30のやささえだげんご笹枝弦吾は、ほうぜん呆然として舞台の上に踊る彼女達を見入った。

そのとき彼のまなぞこ眼底に映つた一人の踊り子があつた。その踊り

子は、他の九人と同じように調子を揃えて踊っているのであるが、何だかすこし様子が変である。

どう変なのかと、なお尚もしさい仔細に観察をしていると、なるほど成程一つの  
おかしいことがある！

その踊り子は頭を左右に、ややふ稍振りすぎる嫌いだ。

いや、もっと別の言葉で云うことが出来ると思う。——その踊り子は首を左に傾かたむけているうちに、急に驚いたように首を右に傾け直すのだった。首を、その逆に右から左へ傾け直す行モーシヨン動は自然に円滑えんかつに行われるのだった。唯左ただに曲たつている首を右に傾け直すときに限り、非常に不自然な行モーシヨン動が入った。

もっと別の言葉で云える。つまりそんな不自然な行動も左の眼

が悪いからこそ起るのだ。左の眼が悪いときは、悪い方の眼は見えないから右の一眼いちがんで前面ぜんめんを見ることになる。そのためには顔を正面に向けていたのでは、左の方が見えない。それを補うためには右の眼を身体を中心線の方に寄せる必要がある。その時に顔を曲げねばならぬ。このとき人間は首を左へ曲げる！

左眼の悪い人間は、つまり、常に左に首を曲げている。しかし踊り子がいつも左へ傾いた顔をしていたのでは美感びかん上困る。そこで氣のつく度たびに、ヒョイと首を逆にひねる。この場合、右へは、右へ振ったが振りすぎて人目ひとめを引くようになる。そして踊っている裡うちに、つい習慣が出て首が自然に左へ曲る。氣がついてハツとすると、不自然にギクリと首を右へ曲げる。——これだ、これだ。

あの、首を振り過ぎる女が、求める副司令なのだッ。しめた！

## 7

(しめた)と喜んではみたが本当に喜ぶにはまだ早かった。何故なら彼女は他の九人と同じ「木もくせい製の兵隊さん」だった。どれが彼女の名前やら判らない。

(弱った。やはり呪のろいのプログラムだッ)

弦吾は、改めてプログラムを呪った。

そうこうする裡に同志百七十一名の生命は、刻々に縮ちぢつてゆく。そうだ、こうしては居ゐられない。

(例の試みをやってみるか)

彼は暫しばくプログラムの表面を見ていたが、今の「木製の人形」

に出ている十人のレビュー・ガールの名前を胸のうちに諳そらんじた。

ろくじよう  
六条

ちはる  
千春

ひらかわ  
平河みね子

たつみ  
辰巳

すずこ  
鈴子

かしま  
歌島

さ  
定

だこ  
子  
やなぎ  
柳

ちどり  
ちどり

こばやし  
小林

すいこ  
翠子

かがわ  
香川

ももよ  
桃代

さんじよ  
三二

う  
条  
たけこ  
健子

かいばらまほこ  
海原真帆子

くれないきよこ  
紅黄世子

この中に彼女の名前があるのだ。この出演人員を①としよう。

ところで一つ前の「砂丘の家」には彼女は出なかつた。しかし

これと①との出演人員を較くらべると、両方に出演している女が四人

もある。「近所の娘」をつとめる香川桃代、平河みね子、小林翠子、六条千春の四人だ。するとこの四つの名前には彼女の名前はないのだから、①の十人から先ず消し去ってもよい。すると残り  
は六人となる。

辰巳 鈴子      歌島 定子      柳 ちどり      三条 健子

海原真帆子      紅 黄世子

だけが残る。この中の一人が、あの女なのだ。

Q X 30は、今や神を念ねんじた。この調子で、敵の副司令の義眼女の名前を知らしめ給え。

「木製の人形」が引込むと、次はプログラムの随したがつて、「シャンソン 朝顔の歌」それから「ダンス 美うるわしの宵よい」いずれも彼女

は出ない。「シヤンソン 遙かなるサンタ・ルチア」も出ない。  
 次の「ダンス・オー・ヤヤ」にも出ない。そして次の「ダンス・  
 カンツリー」に移った。

これにも彼女は出なかつたが、大いに注意すべき事がある。そ  
 れは例の残つた六人の中の三人、すなわち辰巳鈴子、三条健子、  
 歌島定子が出演していることがプログラムの上から読まれた。こ  
 れは何を意味するかというと、彼女はその三つの名前の中には無  
 いということ——果然、<sup>かぜん</sup>敵の副司令の名前は、残りの三つの名前  
 の中にあるという結論になつた。ああ、その三つの名前！

<sup>かいばらまほこ</sup>海原真帆子

<sup>やなぎ</sup>柳

ちどり

<sup>くれないきよこ</sup>紅 黄世子

<sup>とがま</sup>利鎌を振りまわしている死の神はわれ等の同志百七十一人の許<sup>もと</sup>

を離れて、いまや刻々敵の副司令へ迫りつつあるのだ。

さて残る三人は、どこでそれぞれ判るであろうか。

QX30は、とどろく心臓を押えてプログラムの方を調べて見た。

判る、判る！

次の演出は、初めに返つて、第一ナンセンス・レビュー「弥次喜多」二幕十二場だ。辿つてゆくと、この中の第二景「大阪道頓堀」のところ为例の三人のうち、紅黄世子だけが他の二人に別れて出演するのだ。

それから、それから……。

残る海原真帆子と柳ちどりとは、第四景の「琵琶湖畔」に茶

店せむすめ娘 お金とお銀で一緒に出る。さても焦あせらせることではある。  
 ・ ・ ・ ところで第五景の「山賊邸展望台」では唐子からこの娘として、柳  
 ・ ・ ・ ちどりが出る。

第六景の「奈良井遊廓」では残りの海原真帆ならいゆうかく子が出る。これで  
 全部判ったことになる。

だが、此この第六景「奈良井遊廓」まで待つ必要はない。既に一  
 つ前の第五景「山賊邸展望台」で、残る二人のうち柳ちどりが  
 判るのだから、あとの一人は第六景を見て確たしかめずとも判る筈はずだっ  
 た。——敵の副司令の断頭台だんとうだいはこの第五景で、切つて放たれる  
 のだ。

Q X 30 笹枝弦吾は、齒を喰くいしばって、喜びの色を押し隠した

のだった。

## 8

弦吾の先走りしたチエツクとは別に、先ず「フィナーレ」が開いて、たしかに例の義眼女を発見することが出来た。プログラムの上に②と印をつけた。第二回目の登場という意味であつた。

弦吾には、もう幕間まくあいもなんにもなかつた。唯機ただの至るのが待ちあぐまれるばかりだつた。「弥次喜多やじきた」が始まつて、第一景。

一座を率<sup>ひき</sup>いる丸木花作と鴨川布助とが散々<sup>さんざん</sup>観客を笑わせ  
て置いて、定<sup>じょうもん</sup>紋うった幕の内へ入った。

いよいよ第二景。紅黄世子かどうか判ろうという機会が来たのだ。流石<sup>さすが</sup>に胸が迫った。道頓堀行進曲も賑<sup>にぎや</sup>かに、花道からズラリと六人の振袖美しい舞妓<sup>まいこ</sup>が現れた！

(居ない、居ないぞ)

Q X 30は軽い吐息<sup>といき</sup>をした。

それからプロگرامは進む。第四景には、残る柳ちどりと海原真帆子とが茶店娘<sup>ちやみせむすめ</sup>となって確かに登場したと思われる。プロ  
グラムの上に、彼女の出演の印③を打って置こう。Q X 30は、成  
功へもう一步の手前へ立って、ホツとした。振返ってみればよく

まア此の複雑なプログラムから、彼女の名前を拾い出せるようになったものだ。

さて、いよいよ運命の決まる第五景だ。冷静に、冷静に！

山賊邸の展望台。怪しげなる囃はやしにつれて、一隊の唐子からこが踊りつつ舞台へ上つてきた。

「呀あッ」

と叫びたいのを懸命で忪こらえたQX30だった。見よ！ 見よ！  
あの女がいるではないか。敵の副司令が、唐子からこになつて、白々しらじらしくも踊っているのだ。決つた！

副司令の芸名は、柳やなぎちどり！！

弦吾は素早く「柳やなぎちどり」と名前をプログラムから千切りちぎりつつ

て、隣りにピタリと寄り添っているQZ16同志帆立ほたて介次かいじの掌てのうち、ねじこんだ。

帆立はフラリと席を立った。

一つ大きな欠伸あくびをすると、デイ・ヴァンピエル座の木戸口を出ていった。レビュー館の向うの角を曲まがると急に歩調を速めて、かねて諜しめし合せて置いたR区裏の二つ並んだ公衆電話函のところへ……。

公衆電話室には、既に黄色の外套を着た青年が二人、別々に入つて居おつた。サインを送られたのでQZIGは直ぐに「柳ちどり」の名前の入った紙片を手渡した。

「すみませんでしたね。まアこつちへ入り給え」黄色い外套を着た同志は云つた。

其そのとき時この二つの公衆電話の甲乙とも相手のベルが喧やかましく鳴つていた。

甲の方の電話は、一町半ほど先の洋食屋の屋根裏へ繫つながつていた。「オイ、どうだ」と向うから声をした。

「もう直ぐ出て来るから、うまく演やれよ」と、こつちから黄色い

外套の同志が稍震え声で云った。興奮に慄ふるえているのだった。

「ウン、しつかり演ってみせるぞ。安心せい。相手を確めたら直ぐ報しらせる！」

そういつた屋根裏の青年の前には一台の機関銃が壁かべ穴あなを通し  
て外を覗のぞいている。いつでも引金が引ける、この機関銃の銃口は、  
向いの高い建物の三階に、ポツカリ開いた窓に向けられている。  
もつと精確に云うと銃口は、向いの窓の内から見える壁かべ掛かけ電話  
機を覗ねらっているのだった。——その電話機は、受話器が紐ひものまま  
ダラリと下っていた。思うに、電話で呼出された人を探しに行つ  
ているものらしい。

五秒、十秒、十五秒。

向うの窓に、一人のレビュー・ガールが現れた。頭が痛いのか、左手でお圧さえている。

「はア、モシモシ」

と、その美しいレビュー・ガールは電話口の前で唇を動かした。「ああ、もしもし」レビュー・ガールの電話に答えたのは、意外にも区裏の公衆電話の乙の方を占領している黄外套の同志だった。「もしもし。あんたは、柳ちどりさん？」

同志の声は悠々と落着いている。それもその筈、一方の旗頭たUいX3ち鯛地秀夫ひだおったから。

「ええ、そうよ」と女が云った。

鯛地秀夫は、ツと手をあげて、隣の公衆電話甲の同志QさX7ま左さぶ

馬三郎へ合図をした。

(よし、撃て——といえ)

というサインだ。鯛地は豪胆にも尚も柳ちどりを電話機に釘止めにして置こうと努力した。

「柳ちどりさんに、いいものを進呈——」

撃て、——という命令は、屋根裏の同志の耳に達して、スワと機関銃の引金を引いた。

どどどどどどどどど、どどどどどどどどツ！

霰のような銃丸が、真白な煙りをあげて、向いの窓へ——

柳ちどりは、声を立てる違もなく全身を蜂の巣の巣のように撃ち抜かれ、崩れるように電話機の下にパタリと倒れた。

「命中したぞオ」

それが同志への最後の報告だった。

次の瞬間に、屋根裏の機関銃手も公衆電話室甲乙の黄外套きがいとうも、

それから又、同志帆立も、飛鳥ひちょうの如く現場から逃げ去った。

恐ろしい暗殺あんさつ状況じょうきょうだった。

## 10

落ち着かぬ心を、客席に強いて落ち着かせようと努力している

QX30の笹枝弦吾だった。

どどどどどどツ。

がたーン。

という異様な物音を余所よそながら聞いた。

(ウツ、やったな)

第五景「山賊邸展望台」の幕はスルスルと下りおりた。

舞台裏には異様な混乱いようが起っているようだった。

観客は何事とも知らぬながら、少しづつぎわめいてきた。

緞帳どんちようが大きく揺れて、座長の丸木花作が、鬢かつらだけ外はずした舞

台姿のままで見れた。

「皆さん。お静かに願ひ上げます。唯ただいま今女優が一人、急病で亡な。

くなりました。しかしもう事は済みましたから、御安心の上、お仕舞しまいまでごゆるりと御見物願います。では直ちに第六景、『奈良井遊廓』の幕をあげます」

うわーッと何も知らない観客は拍手した。

座長が引込むと、緞帳は別に何事もなかつたかのように、スルスルと上へ昇つていった。そして賑にぎやかな囃はやしの音につれて、シヤン、シヤンと鳴る金棒かなぼうの音、上手かみてから花車だしが押し出してきたかのように、花魁おいらん道中どうちゆうが練ねり出だしてきた。

提灯ちようちん持ちが二人、金棒引かなぼうひきが二人、続いて可愛かむろらしい禿かむろが：

…。

「呀あッ」

と大声で叫んだのは、客席のQX30の弦吾げんごだった。

見よ、確かに死んだ筈の義眼の副司令が、真紅な禿かむろの衣裳を着て、行列の中を歩いているのだ。これが驚かずにいられようか。

「シ、しまった！」

と気がついたときは、もう既に遅かった。隣席の五十坂を越したと思う男が、年齢としの割には素晴らしい強力ごうりきで、弦吾の利腕ききうでをムズと押えた。

「話は判っている筈はずだ。さア静かに向うへ来給え」

その一語で、すべては終わった。魚眼ぎよがんレンズを透した写真とを調べてみるまでもなく、大声をあげたりして、もう明めい瞭りょうな失敗をしたQX30だった。もう再度さいど、生きて此のレビュー館は出られ

なくなつた。

万事休す！

\*

義眼の副司令の女を、柳ちどりと思つていたのは笹枝弦吾の惜しい誤解だつた。柳ちどりは確かに機関銃で殺された踊り子だつた。この柳ちどりは、第五景に出る段になつて、急に烈しい頭痛に襲われたのだつた。出場は迫るし、遂に已むなく副司令が柳ちどりに代つて出たわけだつた。そこで彼女は柳ちどりと間違えられるようなことになつた。次の第六景、「奈良井遊廓」の場で正しい持役で出演したわけだつた。柳ちどりでなければもう海原真帆子に決つてゐる。皆さんは其の名前が、「禿」という役割の

下にあるのを既に御存知の筈である。

かいばらまほこ  
海原真帆子こそ幸運なる副司令の芸名だった！



# 青空文庫情報

底本：「海野十三全集 第2巻 俘囚」三一書房

1991（平成3）年2月28日第1版第1刷発行

初出：「日曜報知」報知新聞社

1932（昭和7）年11月12日号

※「茶店娘《ちやみせむすめ》」は底本のプログラムでは「葉屋娘」ですが、底本通りとしました。

入力：土屋隆

校正：田中哲郎

2005年5月24日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

# 間諜座事件

## 海野十三

2020年 7月12日 初版

### 奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しむ青空ヘルパー <http://aohelp.club/>  
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。  
<http://tokimi.sylphid.jp/>